

学年	中学2年	教科	理科	科目	理科Ⅱ（理科2分野）	単位数	2
教科書名	未来へひろがるサイエンス2 （啓林館）			副教材名	Key ワーク理科2年 （教育開発出版）		
クラス・コース	中高一貫コース			担当者名	秋本 啓邦		

I 目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事象・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。「生命」「地球」などの科学の基本的な見方や概念を柱として、内容を構成し、科学に関する基本的概念の一層の定着を図る。理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせ、科学への関心を高めさせる。

II 授業のねらい

「生物のからだのつくりとはたらき」

生物の体は細胞からできていることを、観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。

「地球の大気と天気の変化」

身近な気象の観察、観測を通して、気象要素と天気の変化の関係を見いださせるとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。

III 授業の進め方

教科書や映像教材を用いて、授業を展開する。定期的に小テスト実施し、定着の度合いを図る。状況に応じて、問題集等の副教材を使用する。

IV 学習上の留意点

知的好奇心をもって、授業や実験に取り組むこと。復習は時間をかけて行い、提出物などは丁寧に仕上げること。

V 定期試験

教科書と問題集の内容を中心にし、発展的な内容も踏まえて出題する。

VI 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物状況と実験操作などを総合的に評価する。

VII 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	「生物のからだのつくりとはたらき」 1章 生物の体をつくるもの 実験① 細胞の観察	小テスト 中間試験 期末試験 提出物 実験操作	<ul style="list-style-type: none"> 生物の体が細胞でつくられているということを認識できる。 植物細胞と動物細胞の違いを認識できる。 植物の各器官の働きを認識できる。 動物の各器官と消化酵素の働きを認識できる。 血液の役割とその成分について認識できる。
	5	2章 植物の体のつくりとはたらき 実験② 光合成にともなう二酸化炭素の出入り		
	6	3章 動物の体のつくりとはたらき 実験③ だ液のはたらき		
	7			
二学期	9	4章 動物の行動のしくみ 実験④ 皮膚感覚を調べる 実験⑤ 反応時間を調べる	小テスト 中間試験 期末試験 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 感覚器官のしくみと働きについて説明できる。 反射について認識できる。 気象要素を認識でき、天気記号を用いた天気図を読み取ることができる。 気温と湿度の関係を認識でき、湿度を算出できる。 雲が形成される過程を説明できる。
	10			
	11	「地球の大気と天気の変化」 1章 地球をとり巻く大気の様子 2章 大気中の水の変化 実験⑥ 露点測定と水蒸気量の推定		
	12	実験⑦ 雲を作る実験		
三学期	1	2章 天気の変化と大気の動き 実験⑧ 温度の異なる空気の動きを調べる	小テスト 学年末試験 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 前線の形成、種類、その特徴を認識できる。 前線と天気の関連を認識できる。 大気の動きを立体的にとらえ、天気との関連を認識できる。 日本の四季における天気の特徴を説明でき、それが生じる仕組みを認識できる。
	2	3章 大気の動きと日本の四季		
	3			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。